

いし い なんぼう
石井 南放 (1912~1991)



日本画家。温泉郡難波村(現、松山市)出身。本名は進。東京美術学校(現、東京藝術大学)卒業。昭和35(1960)年頃より研究を始めた吉田蔵澤の墨竹に感銘を受け、以後傾倒し、蔵澤の研究者として知られる。自身の画業は、水墨の世界にわが道を見いだし、画題の多くは、樹木、特に松に集約され、「竹の蔵澤」に対し、「松の南放」と評された。戦後は愛媛の美術界の立て直しに大きく貢献。愛媛美術協会、愛媛日本画研究会(後の愛媛日本画会)、愛媛美術教育研究会(後の愛媛美術教育連盟)などの結成に尽力した。

略歴

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 大正元(1912)年8月18日 | 温泉郡難波村庄に生まれる。 |
| 昭和9(1934)年 | 東京美術学校入学。日本画・洋画・書などを学ぶ。 |
| 昭和12(1937)年 | 東京美術学校卒業 |
| 昭和13(1938)年 | 大潮会展に「朝」を、翌年には「虫とり」を出品。2年連続特選 |
| 昭和18(1943)年 | この頃より雅号「南放」を名乗る。 |
| 昭和19(1944)年 | 愛媛師範学校(現、愛媛大学)教諭に就任 |
| | 引き続き、昭和53年の定年まで愛媛大学助教授、教授を歴任 |
| 昭和23(1948)年 | 愛媛日本画研究会の結成に参加 |
| | 愛媛美術協会の結成に参加 |
| 昭和24(1949)年 | 愛媛美術教育研究会の結成に参加 |
| 昭和27(1952)年 | 愛媛県美術会発足 |
| 昭和35(1960)年 | この頃より吉田蔵澤の研究に取り組む。 |
| 昭和38(1963)年 | 「蔵澤会」を結成、副会長を務める。 |
| 昭和41(1966)年 | 第1回個展開催(ヒロヤ画廊)。以後、個展を多数開催する。 |
| 平成3(1991)年1月3日 | 78歳で永眠 |

(写真提供：石井昭一氏)

〈関連図書〉

- ・『南放随想』 南放先生の還暦を祝う会 1972年
- ・『石井南放作品集』 南放先生の退官を記念する会 1978年
- ・『石井南放随想 絵と文』 南放先生の退官を記念する会 1978年
- ・『愛媛の名松』 愛媛県立美術館 1982年
- ・『伊予の画人』 愛媛新聞社 1986年
- ・『伊予の絵馬』 愛媛新聞社 1986年
- ・『学徒勤労働員絵巻』 学徒勤労働員絵巻刊行委員会 1988年
- ・『石井南放画集』 求龍堂 1989年

〈主な収蔵資料〉…(P215, 90)

〈関連施設〉…久万美術館

〒791-1205 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7 TEL: 0892-21-2881

松山市北条ふるさと館

〒799-2436 愛媛県松山市河野別府995 TEL: 089-993-3266